

景況感指標からみた米中経済の動向

シニア・ストラテジスト 石黒英之



ポイント① 中国の景況感は市場予想以上に拡大

中国国家統計局が3月1日に発表した2月の中国製造業PMIは52.6と、12年4月以来の水準を記録し、2ヵ月連続で好不況の分かれ目の50を上回りました（右上図）。同PMIの内訳をみると「生産」が56.7と前月から6.9ポイントの大幅上昇となったほか、「新規受注」が54.1と前月の50.9から上昇しました。また、「サプライヤー納期」も52.0と前月から4.4ポイント改善しており、中国の製造活動は活発化しているといえます（同図）。

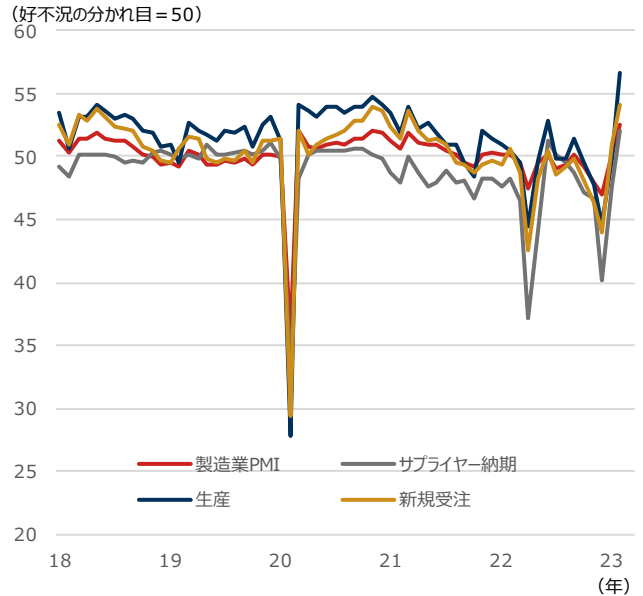
サービス業の景況感を表す同日発表の2月の非製造業PMIも56.3と市場予想（54.9）を上回る上昇となるなど、中国経済は市場の想定以上の速さで回復基調を強めていると考えられます。

ポイント② 米製造業の景況感は依然弱い

一方、米国で同日発表された2月の米ISM（サプライマネジメント協会）製造業景況感指数は47.7と前月から0.3ポイント改善したものの、市場予想の48.0を下回りました。4ヵ月連続で好不況の分かれ目の50を下回っており、中国とは対照的に米国の製造活動の回復は遅れていることが示された形です（右下図）。

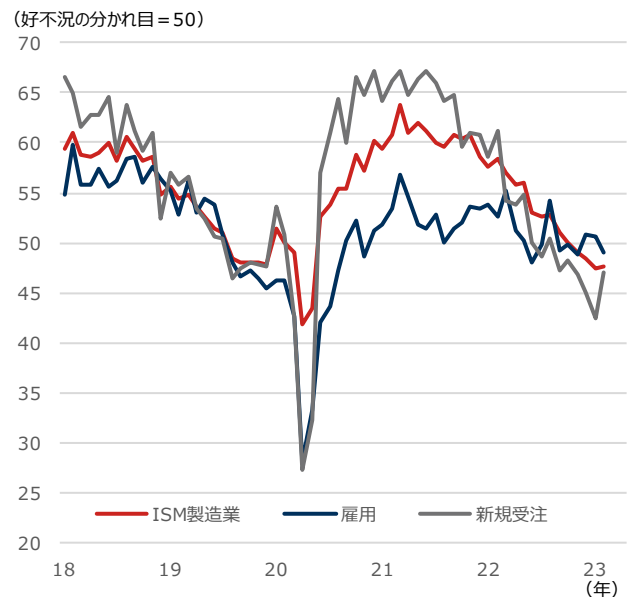
もっとも内訳をみると、「新規受注」が47.0と前月から4.5ポイントの改善となるなど明るい材料もみられます。「仕入れ価格」は前月から6.8ポイント上昇し、米インフレへの警戒を高める数字となりましたが、一方で「雇用」は49.1と前月から1.5ポイント低下しており、賃金インフレの抑制を示唆する内容となりました。米製造業を巡る環境は依然厳しい状況にあるとみられますが、中国経済の回復基調が強まりつつあることは世界経済の支えとなりそうです。

中国製造業PMI（購買担当者景気指数）とその内訳



期間：2018年1月～2023年2月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米ISM製造業景況感指数とその内訳



期間：2018年1月～2023年2月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。